

第9分科会 「放射線医療従事者の賃金労働条件の改善に向けて」

夜勤の実態や休暇制度、人員配置について考える

問題提起

放射線業務に携わる医療従事者は、最新の医療機器の導入により、高度な技術を有する業務が多くなっており、専門性の高い職種です。放射線技師を養成する教育機関は二十年前、専門学校や短期大学が多くを占めていましたが、最近では四年生の大学に変わりつつあり、卒業することでよりレベルの高い学生が医療の現場で活躍されています。また、技師会等では教育制度が充実しており、各部門での認定制度の確立、高度な医療を提供する専門性の高い技師を育成しています。

医療の現場では高度な医療を提供する必要な職業ですが、最近では、賃金労働条件の低下、改悪など多くを耳にします。人事考課を行なっている職場も多くあります。そのため、医療研究集会では多くの方に出席して頂き、実態把握を行い、改善するための話し合いにつながる集会にしたいと思います。夜勤の実態や有給休暇等の休暇制度、最近では男性育休や看護休暇なども視野に入れ、人員の配置人数など適正に確保されているかなど配置基準についても話し合います。また昨年につきタスクシフトについても他職種との連携も含め議論を深めていきます。

病院全体の労働条件を改善するには放射線技師を中心に放射線業務に携わる職種の方々と組合の中核で運動を行うことでより一層、賃金労働条件が改善すると考えます。より良い職場環境を得るには、組合体制や労使関係も重要です。病院と組合が、お互い切磋琢磨し改善していくことが望まれます。そのためには、労働組合も力をつける必要性を感じます。病院と話し合い、働きやすい職場に改善していくことが、組合の最大の魅力です。多くの施設の労働実態を知り、少しでもよりよい職場環境につながる分科会になればと思います。

放射線に携わる医療従事者（看護師、臨床検査技師、臨床工学技士等）の賃金労働条件に関する労働実態、問題点について多くのレポートをお待ちしております。多くの参加者による討論ができれば幸いです。放射線技師だけでなく、放射線業務に従事する医療技術職の参加も大歓迎です。よろしくお願い致します。

運営委員（責任者）	岩崎 泰剛	（済生会新潟病院労働組合）
運営委員	廣中 啓人	（済生会兵庫県病院労働組合）
運営委員	松村 恒	（奈良健生会労働組合）